

岡部研究会「研究論文概要集」(2006年度秋学期)について

岡部研究会では、1998年度春学期以降、参加メンバーが学期中に執筆したすべての研究論文の「概要」を学期毎に一冊にとりまとめて刊行しています。本書は、2006年度秋学期のものであり、このシリーズの第15号に該当します。

今学期の研究テーマは、研究会1「金融研究：情報化の進展と金融業」、研究会2「日本経済研究：情報技術革新と日本経済」の二つであり、ともに情報通信技術革新のインパクトを広範に検討することを中心課題としました。いずれの論文においても現代喫緊の問題が採り上げられています。今回の概要集には三つの特徴があります。第一に、ここに収録されている論文要旨は、すべて研究報告会議において報告され(今回は2007年1月20～21日に湘南国際村で開催)、そこでの討議を踏まえて改訂されたものとなっていることです。第二に、この冊子の刊行が湘南藤沢学会の正式刊行物として発行されることです。そして第三に、今学期の論文の中にはこれまでとは異なり共同執筆の論文が3編も含まれていることです。

本書を刊行する理由は二つあります。第一に、各研究の成果の要点を記録しておくこと自体に意味があるからです。第二には、研究テーマとして多様な視点があることを示すことによって、今後の研究の糸口を見つけるヒントになることが期待されるからです。なお、過去の「概要集」の目次は、岡部研究会のウェブサイトに掲載してあります(アドレスは下記)。

なお、これらのうち最優秀と認められたもの(各研究会1編、合計2編)は、従来どおり、単独刊行物として湘南藤沢学会より刊行される予定です。従来のそうした岡部研究会優秀論文は、それぞれすでに刊行されており、論文全文をインターネット上からダウンロードすることができます。

2007年1月

総合政策学部

岡部 光明

<http://web.sfc.keio.ac.jp/okabe/>

目 次

研究会 1

日本企業のM&A効果波及に関するセミマクロ的実証分析--国内産業を対象として(関 晋也)	6
汎欧州証券取引所創設への挑戦 (宇佐美奈穂)	8
証券取引所の再編・統合に関する理論分析 (塚越博基・小林龍一良)	10
お年玉投資信託の組成--社会的必要投資という新たな投資概念の提案-- (風岡宏樹)	12
対日直接投資促進に向けての課題 (加藤祐子)	14
中国における外資系金融機関の参入と政府認識の変容--深セン開発銀行 (澤村帝我)	16
欧州中央銀行制度についての報告 (竹内宗平)	18
企業の組織編成に関する現状考察と望ましい姿--権限委譲の観点より (細井陽子)	20
コーポレート・ガバナンスにおける年金の役割--日米比較を中心に-- (堀江恵理子)	22
検証：郵便事業の民営化--郵便貯金事業の銀行への影響 (森岡和宏)	24
日本におけるベンチャーキャピタルの動向と課題 (酒井優一)	26

研究会 2

オーバーバンキングの程度と原因に関する研究 (永井裕二)	30
製造業における中小企業の成長戦略 (大森一徹)	32
年金の現状と問題点について (梅原 隆)	34
情報通信市場におけるNTTのあり方 (田中竜二郎・木上貴史・永井裕二)	36
年金目的相続税の制度設計 (石関芙実子・喜多康平・塚越博基)	38
国民健康保険運営の効率化--保険者規模の広域化を中心に-- (黒須隆寿)	40

日本のEPA（経済連携協定）への取り組み--現状と今後--（齊藤裕紀）	42
日本の出版業界に関する考察--出版流通の視点から（鈴木麻里絵）	44
エコファンドの普及と可能性の現状（室田侑嗣）	46
合計特殊出生率低下の原因についての研究（山本巧）	48
開発援助のサーベイと実証研究（安田憲治）	50